



レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡 第 6 回研修会・交流会



報告者：DLBSN 福岡副代表坂梨左織

桜が待ち遠しい 2017 年 3 月 16 日（木）BiVi 福岡 で、協力医 合馬慎二先生の司会のもと、DLBSN 福岡の第 6 回研修会・交流会を開催しました。今回は、7 名のご家族が初参加されました。

講義「レビー小体型認知症について」

まず、顧問医である坪井先生の講義では、福岡大学病院 もの忘れ外来の受診状況について説明をされました。レビー小体型認知症はアルツマイマー型認知症に次いで患者数が多く、決してまれな病気ではないと説明されました。一方で、診断が難しい現状も説明され、みなさん熱心に学ばれていました。

「レビー小体型認知症の父親の介護実践報告」

研修会・交流会の初めての試みとして、レビー小体型認知症のお父様を介護をされているご家族の介護について報告して頂きました。

米濱香織さんのお父様は、2 年前にレビー小体型認知症と診断され、現在要介護 5 で、小規模多機能施設「三丁目の花や」のデイサービスやショートステイを利用しながら、自宅で過ごされています。この施設を選ばれた理由は、職員の方の笑顔と声かけの姿からでした。初め、お父様のためにとアロマやココナッツオイルなど様々なものを試されましたが、効果はみられなかったそうです。

これまでレビー小体型認知症について学ぶ機会のなかった米濱さんですが、昨年 1 月にレビー小体型認知症サポートネットワーク福岡スタート研修会を受講したことをきっかけに、「知識がないと対応できない」とわかり、「どうしてこうなるかわかることで、お父様への接し方が変わった」とお話しされました。また、「ユマニチュード」についても自ら学ばれ、「目を合わ

せて正面から話しかける」、「優しく手で触れる」、「ゆっくり話す」ことを意識され、お父様のご様子も変わってきたそうです。

次に、小規模多機能施設「三丁目の花や」の川上智美さんより、米濱さんのお父様との出会いから現在までのご様子を、「認知症の私からあなたへ 20 のメッセージ（佐藤雅彦）」の言葉とともに、写真を交えて紹介して頂きました。紹介の最後には、お父様の歩かれる動画とともに、「自宅では家族と、三丁目の花やでは職員と一緒に歩いています。一緒に居たい、一緒にものごとを楽しむパートナーになれるように」とメッセージが添えられました。

米濱さんと川上さんの報告を通して、米濱さんのご家族と施設の職員の方々みなさんが、いつまでもお父様が穏やかに過ごされることを願い、支えていらっしゃるご様子が伝わってきました。

このあと、ご家族、ケア専門職を交えて、4 グループに分かれ、ご家族のお話しを中心にディスカッションを行いました。質疑応答の内容をご紹介します。

質疑応答

- うつ病の薬を飲んでいて症状が悪化したため止めたところ、劇的に良くなった。一方、怒りっぽくなったようだ。今後、凶暴になる心配はあるか。
→理由がある怒りっぽさなら問題はない。しかし、レビー小体型認知症の人は過敏になっているので、怒る原因を作らないように環境を整備することで対応が可能である。
- 幻視があり、これまで肯定をする対応をしていたが、それでよいのでしょうか。
→軽症ならば気にしなくてよいが、重症化した場合、否定すると悪化する可能性がある。本人に目をつむる、触らせる、隠すなど優しく対応する必要がある。アリセプトで幻視が和らぐ場合もある。

最後に、下村代表が、ご家族の「ケアマネージャーが忙しそうで、連絡しても数日してから返事がくる。相談ごとがしづらくなり、次第に事務的連絡しかしなくなった」という訴えを紹介されました。専門職者の立場として、しっかりと受け止め考える必要があると感じました。

次回の研修会・交流会では、佐藤昌久氏をお招きして「つくり笑いの魔法エクササイズ“笑いヨガ”～レビー小体型認知症と体幹筋・表情筋 W コアコミュニケーション術～」を行います。みなさんで、笑いで免疫力を up させましょう。ご本人の参加も大歓迎です。



次回の研修会・交流会は2017年6月15日（木）18時～です。

